

お茶の水女子大学附属高校の生徒からの投稿 ④

5月にお茶の水女子大学附属高校の生徒たちが学年合宿で諏訪地方を訪問した。生徒たちから寄せられた投稿を紹介する。

長野の海

小泉あかね

「そんな馬鹿な。合宿の行きはバスの中カイトさんの昔の人は諏訪湖を見て海だと勘違いしたという話を聞いてを思った。諏訪湖が広いのは事前学習で分かっていたが、それほどでもないだろうと思っていた。自分がいるところが、実際に湖畔を散策してみると諏訪湖の広さに圧倒され、広

人の繋がりを感じる諏訪

望月 千雅

先日私は合宿で長野県の諏訪地方を訪れた。合宿の目的は学年全体の親睦を深めるためだった。そのような目的でなぜ諏訪なのか。事前学習で、諏訪地方には様々な歴史や有名な場所、祭事があることを知った。それらのことにより、様々な体験を通して、親睦を深めるために諏訪なのだと思った。

しかし、実際に訪れてみると当初考えていた予想とは別のことを考えついた。それは、諏訪の方々の一人の繋がりだ。諏訪に向かうバスの中で、諏訪大社に関するビデオを見た。ビデオの内容に、御柱祭についてあった。そこには町一丸となつて祭をする人々の姿があった。また、御田町商店街についてのビデオとお

御柱祭

中島優香夏

私たちの高校では、五月中旬に、長野県諏訪市へ合宿に行きました。私は事前に「御柱祭」について調べていたために、合宿中に諏訪大社に訪れることを非常に楽しみにしていました。実際に、過去の祭で使われた御柱を見てみると、想像以上に大きく感じ、この大きな御柱を人の手だけで山と川を越えて諏訪大社まで

世代をこえて

丸山佳那子

先日学校の合宿で長野県諏訪地方を訪れた。ここでは地元商店街を訪れる機会があり都会にはない良さを体験することができた。

ところで現在の日本では、地方の過疎化・少子高齢化が進み、商店街では店が閉店した状態の「シャッター通り」が社会問題となっている。多くの商店街が閉鎖へと追い込まれる中、長野県諏訪地方にある御田町商店街は二〇二一年に空き店舗〇を達成した。かつて三分の一が空き店舗になっていたこの商店街は、どのようにして復活を遂げたのだろうか。私は実際に商店街を散策して、こ

の背景にあるのは御田町に移り住んだ若者の存在ではないか、と考えた。昔の文化と新しい文化が共存し、御田町ならではの雰囲気があると感じた。地元のお話によると、この町では頻りに会食を行うなど人々の交流を大切にしているらしく、若者と昔ながらの人が強く結びついていることがわかった。若者の存在があることで若者の視点を取り入れられ、商店街の活性化につながったのだと思う。

近年、若者に対し否定的な考えを持つ風潮が高まっていると感じる。しかしそれは、若者の持つ価値観と大人の持つ価値観が異なるからではないか。この御田町商店街のように、若者と大人が互いの価値観を尊重し合い、良きを見つけて活用していくことが大切であると思う。